

令和5年1月30日

仙台市立折立中学校保護者・地域の皆様

仙台市立折立中学校

校長 村上 秀樹

令和4年度協働型学校評価の結果・分析について（御礼とお知らせ）

大寒の候、保護者・地域の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動への御理解と御協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、令和4年度協働型学校評価アンケートに御協力いただきましたことに、重ねて感謝申し上げます。貴重な御意見もいただきましたので、今後の学校運営に生かしていきたいと思います。

つきましては、今年度の協働型学校評価の結果・分析についてお知らせいたします。

今後とも、保護者の皆様や地域の皆様と共に、子供たちのより良い成長を目指して教育活動に取り組む所存でございます。引き続き、変わらぬ御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

記

【 概 要 】

全体を通して、おおむね肯定的な回答となりました。生活に関する質問事項については、生徒の「学校生活が楽しい」と回答したのは84%、保護者の「子供は、学校生活を楽しんでいる」と回答したのは84%と、生徒・保護者ともに80%を超えました。しかし、否定的な回答もあるので、より多くの生徒が「楽しい」と思えるような学校づくりを目指し、具体的に何ができるのかを生徒・保護者・地域と共に検討し、実践したいと思います。

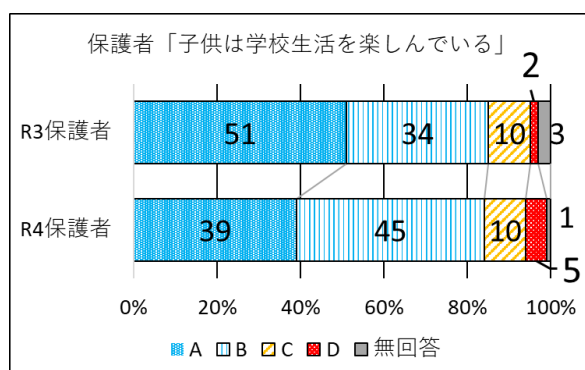
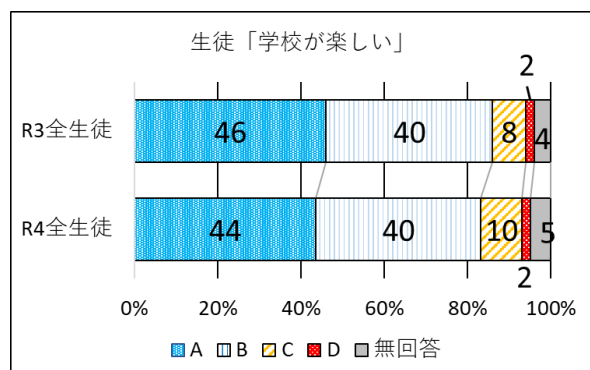
学習に関する質問事項については、生徒の「授業に主体的に取り組んでいる」と回答したのは80%、保護者の「子供にとって分かりやすい授業を行っている」と回答したのは69%と、昨年度よりも3%増加しています。しかし、「(あまり) そう思わない」という回答も見られるので、今後もより分かる授業づくりを目指し、教職員も研鑽を積んでまいります。また、生徒が学びを通して達成感や自己有用感を感じられるように、個別の支援、指導にも努めてまいります。その上、「主体的な学び、協働的な学び」に繋がるようなChromebookの有効活用を推進し、家庭学習においても主体的に活用できるように、課題の設定なども工夫してまいります。

今後も一つ一つの教育活動の目的や経緯を、生徒、地域、教職員が皆で共有し、協働しながら、生徒のより良い成長を目指していきたいと考えております。

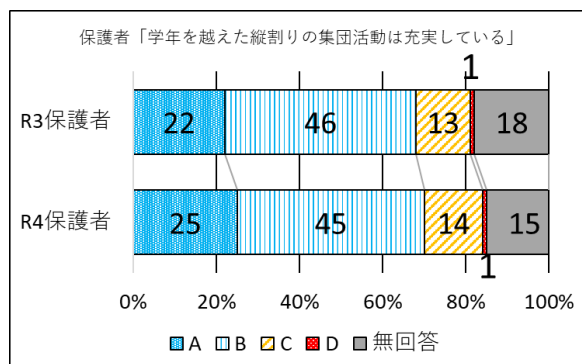
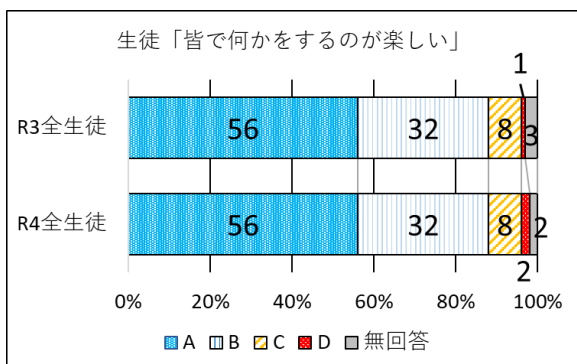
【「令和4年度三者協働で目指す重点目標」に関する、主な質問項目の結果】

（１） 生徒「学校生活が楽しい」 保護者「子供は、学校生活を楽しんでいる」

■ A ■ B ■ C ■ D ■ 無回答 (A: そう思う B: ややそう思う C: ややそう思わない D: そう思わない)

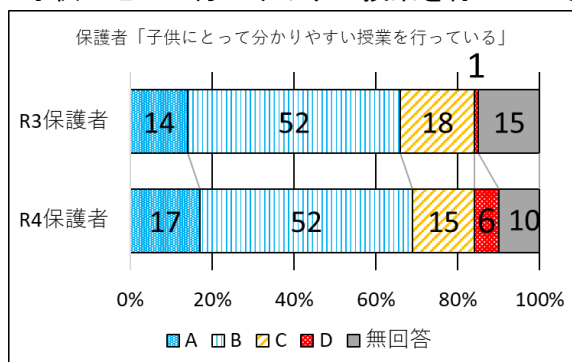
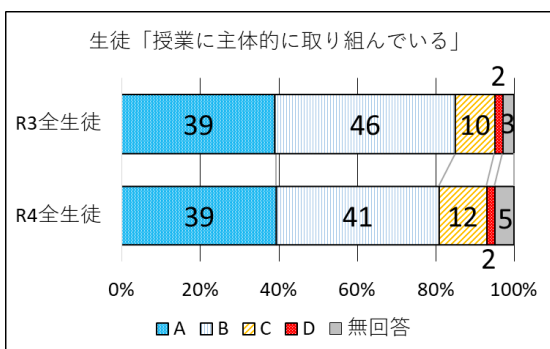


生徒「皆で何かをするのが楽しい」 保護者「学年を越えた縦割りの集団活動は充実している」



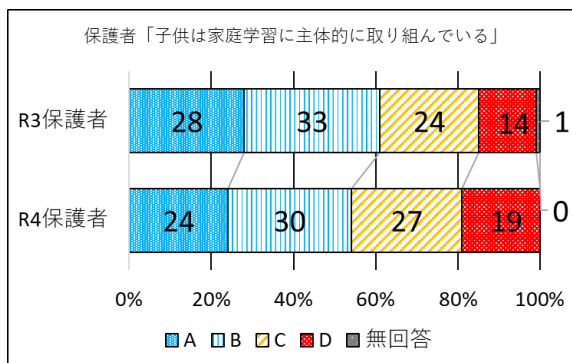
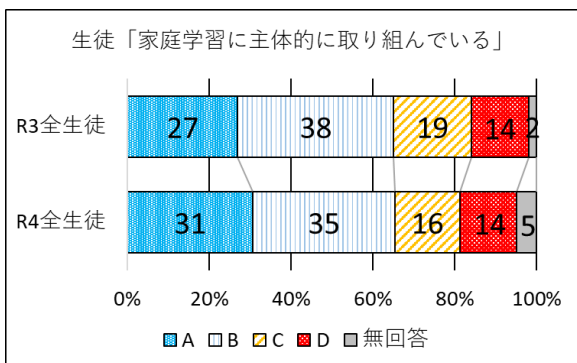
「学校が楽しい」と回答した生徒と、「子供は、学校を楽しんでいる」と回答した保護者はともに84%と、肯定的な回答が高い割合を占めた。「皆で何かをするのが楽しい」と回答した生徒は88%、「学年を越えた縦割りの集団活動は充実している」と回答した保護者は70%見られた。折中祭の縦割り活動や考動議会など、学年を越え、協働した行事への取組が「楽しい」と感じている生徒が多いと思われる。

(2) 生徒「授業に主体的に取り組んでいる」 保護者「子供にとって分かりやすい授業を行っている」



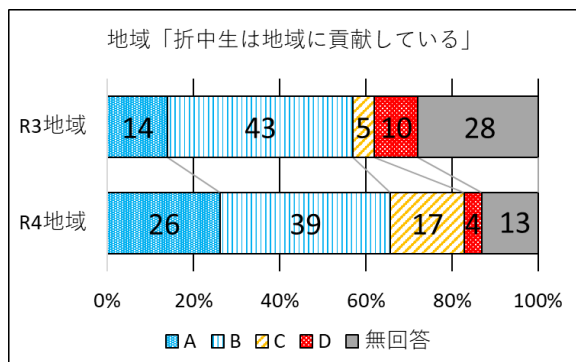
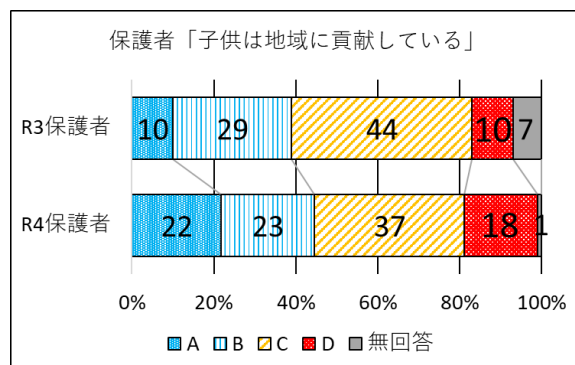
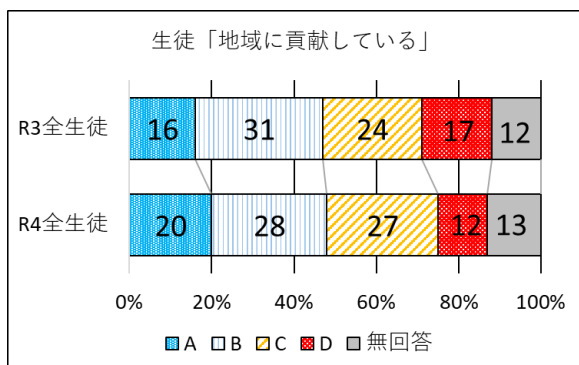
「授業に主体的に取り組んでいる」と回答した生徒は80%と、昨年度から5%下回る結果となった。保護者の「子供にとって分かりやすい授業を行っている」については、昨年度よりも3%上回っている。しかし、保護者の「(あまり) そう思わない」という回答は21%となり、不安を抱えている現状がうかがえる。結果を真摯に受け止め、授業改善に向けて何ができるかを具現化し、実践につなげたい。

(3) 生徒「家庭学習に主体的に取り組んでいる」 保護者「子供は、家庭学習に主体的に取り組んでいる」



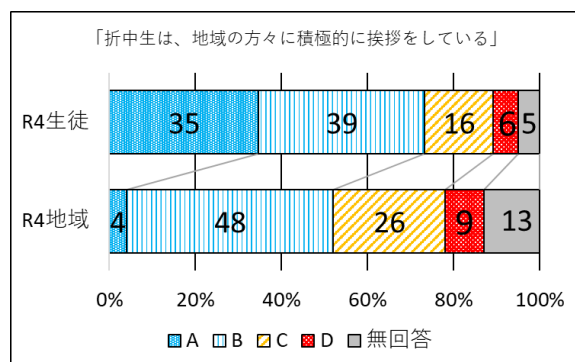
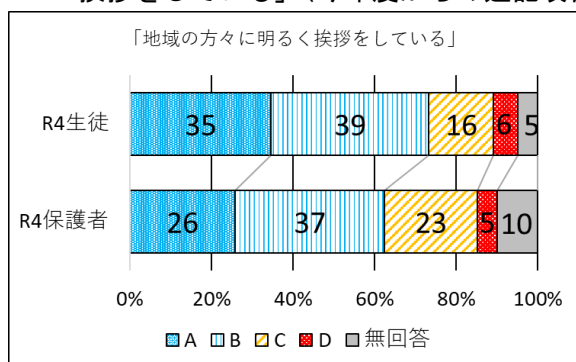
生徒の肯定的な回答の割合が66%となり、昨年度よりも1%上がった。一方、保護者の54%が肯定的な回答であったが、昨年度よりも7%下回っている。「(あまり) そう思わない」という回答が半数近くあり、その割合は昨年度よりも高くなっている。生徒、保護者ともに家庭学習への取組についての課題意識が高いこともあり、自主学習ノートの取組、週末課題の提示、各教科での課題の設定等において、今後検討・工夫し、家庭と連携を図りながら充実した家庭学習の推進につなげたい。

(4) 生徒「地域に貢献している」 保護者・地域「子供（折中生）は、地域に貢献している」



肯定的な回答の割合が、生徒が48%、保護者が45%、地域が65%となり、昨年度よりも上回る結果となった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中ではあったが、「折立ふれあいまつり」や「ライトアート in 折立」での生徒の活躍が結果につながったものと考えられる。来年度も、地域との関わりを大切にし、様々な行事等を協働して行うことで、「地域に貢献できる生徒」を育成していきたい。

(5) 生徒、保護者「地域の方々に明るく挨拶をしている」 地域「折中生は、地域の方々に積極的に挨拶をしている」（今年度からの追記項目）



生徒の肯定的な回答の割合が74%に対し、保護者は63%、地域は52%である。「(あまり) そう思わない」という回答は、保護者、地域ともに25%を超えている。「明るく」と「積極的に」のニュアンスにずれはあるが、この差は、生徒としては挨拶をしている意識だが、保護者や地域の方々には十分に伝わっていないことが考えられる。相手に伝わるように元気よく、大きな声で挨拶をする習慣付けを、日常生活の中で身に付けさせたいと考える。そのためには、教職員からも積極的に挨拶をするなど、学校全体で改善を図っていきたい。また、生徒会主体で行っている「あいさつ運動」の活性化を図るなどして、「明るく積極的に挨拶ができる折中生」を目指し、今後取り組んでいきたい。